王子から巣鴨周辺

1. 国立印刷局お札と切手の博物館

当館「お札と切手の博物館」は、昭和 46 年に印刷局創立 100 年を記念して東京都新宿区市ヶ谷に開設し、平成 23 年 3 月に東京都北区王子に移転。

展示室では、お札、切手、証券など、国立印刷局が製造した各種製品と、明治期以前のお札、諸外国のお札や切手、お札の製造と深いかかわりをもつ銅版画など、様々な資料を展示し、お札の歴史、偽造防止技術などについて解説している。

2～3. 飛鳥山公園　＜江戸時代からの花見の名所＞

❷パークレール飛鳥山公園入口駅、❸山頂駅、

8 代将軍徳川吉宗が庶民の遊興地にと桜を植え、江戸随一の花見の名所になる。明治6年、上野公園などと日本最初の公園として認定。その後、渋沢栄一は、設立に尽力した王子製紙（設立当時は抄紙会社）の工場を眼下に見守ることができる飛鳥山に、1879 年邸を構えた。

２００６年、飛鳥山に公共基準点を整備する際、測量したところ標高は２５．４ｍ。これまで愛宕山（標高２５．７ｍ）が東京で一番低い山と称されていたが、都内で一番低い山と確認され、あすかパークレール山頂駅前に「山頂モニュメント」が設置された。

4. 紙の博物館

日本の『洋紙発祥の地　王子』について、そのきっかけを作った「抄紙会社（しょうしがいしゃ）」（後の王子製紙王子工場）など近代製紙産業の歴史をはじめ、紙の原料と製造工程、多様な種類・用途、製紙業界の取り組みなど、私たちが日常的に使用している洋紙について紹介。

5. 旧渋澤庭園

渋澤資料館

渋澤史料館は、近代日本経済社会の基礎を築いた渋沢栄一［1840(天保 11)～1931(昭和 6)年、号は「青淵」（せいえん）］の思想と行動を顕彰する財団法人である「渋澤青淵記念財団竜門社（現　公益財団法人　渋沢栄一記念財団）」の付属施設として、1982（昭和 57)年、渋沢栄一の旧邸「曖依村荘」跡（現在東京都北区飛鳥山公園の一部）に設立された登録博物館。

当初の渋澤史料館は、旧邸内に残る大正期の 2 つの建物「晩香廬」と「青淵文庫」（いずれも国指定重要文化財）を施設として開館。その後 1998（平成 10）年 3 月に本館を増設。

晩香廬

晩香廬（ばんこうろ）は、渋澤栄一の喜寿を祝って現在の清水建設（株）が贈った洋風茶室。1917（大正 6）年の竣工で、丈夫な栗材を用いて丹念に作られ、暖炉・薪入れ・火鉢などの調度品、机・椅子などの家具にも、設計者の細やかな心遣いが見られる。

晩香廬は内外の賓客を迎えるレセプション・ルームとして使用された。青淵文庫とともに、国の重要文化財に指定されている。

青淵文庫

青淵文庫（せいえんぶんこ）は、渋沢栄一の 80 歳のお祝いと、男爵から子爵に昇格した祝いを兼ねて竜門社（当財団の前身）が寄贈した煉瓦及び鉄筋コンクリート造の建物です。1925(大正 14)年の竣工で、栄一の書庫として、また接客の場としても使用されました。

渋澤の家紋「丸に違い柏」に因んで柏の葉をデザインしたステンドグラスやタイルが非常に美しい洋館です。

6. 榎本ハンバーグ研究所＜研究所を名乗るだけあり、バリエーションも豊富＞

粗挽き肉と細挽き肉を配合し、パン粉より吸水性の高い麩をつなぎで使うなど、独自のレシピで作るハンバーグは 365 種類。和風ソースとデミグラスソースの 2 種のソースが付く「3 種の焦がしチーズハンバーグ」150g1600 円～。

7. 旧古河庭園　＜和と洋が調和する大正期の庭園＞

明治の政治家・陸奥宗光の邸宅だったが、二男が古河財閥の養子になり古河家の所有になった。ジョサイア・コンドル設計の洋館と小川治兵衛作庭の日本庭園がある。約 100 種 200 株のバラは、春と秋に楽しめる。

8. 六義園　＜文学的造詣を反映した名園＞

徳川 5 代将軍綱吉の側用人を務めた柳澤吉保が設計し、和歌に詠まれた名勝の景観八十八カ所が造られた回遊式築山泉水庭園。内庭大門近くの樹齢約 70 年といわれるシダレザクラは幅 20m にも及ぶ。560 本の樹木が彩る秋の紅葉も美しい。

9. 高岩寺　＜心とからだのとげをぬくお地蔵さま＞

江戸時代、針を誤って飲み込んだ女性に本尊の地蔵尊霊印を印した御影を飲ませたところ、針が地蔵尊霊印をつらぬいて出てきたことがとげぬき地蔵尊のいわれ。境内には洗ったところが良くなるとされる洗い観音も信仰が厚い。